

平成 28 年度 第 2 回魚沼市子ども・子育て会議 会議録

1. 日時	平成 29 年 3 月 17 日 (金) 15:00～16:45					
2. 会場	魚沼市中央公民館 2階 中ホール					
3. 出席者 (敬称略)	魚沼市子ども・子育て会議					
	役 職	氏 名	出 欠	役 職	氏 名	出 欠
	会 長	種村 啓子	○	委 員	羽鳥 敦子	○
	副会長	橘 恵子	○	〃	星 弘子	欠
	委 員	野沢 香苗	欠	〃	星 智裕	欠
	〃	重野 育子	○	〃	梅井 美子	欠
	〃	高橋かおり	欠	〃	岡部ひとみ	○
	〃	桑原 郁夫	○	〃	峰川ともみ	○
	〃	今井 久子	○	〃	木多富士子	欠
	〃	山本 都子	欠			
魚 沼 市						
魚沼市子ども・子育て会議事務局 (教育委員会)						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育次長：森山正昭 ・子ども課長：吉澤国明 ・保育園幼稚園係：森山丈順、吉田 浩 ・児童福祉係：風間松司 ・子育て支援センター：斎藤勝浩 						
4. 資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 魚沼市子ども・子育て支援事業計画平成 28 年度事業評価シート ・資料 2 魚沼市子ども・子育て支援事業計画新旧対照表 ・資料 3 平成 29 年度魚沼市予算案 					
5. 会議概要	<p>事務局</p> <p style="padding-left: 2em;">定刻になったので、これより平成 28 年度第 2 回魚沼市子ども・子育て会議を開会する。はじめに、森山教育次長からご挨拶申し上げます。</p> <p>次長</p> <p style="padding-left: 2em;">お忙しい中、お集まりいただき、感謝申し上げます。 本日は、皆さま方から審議いただく内容が盛りだくさんとなっている。 今回が任期最後の会議となるわけで、貴重な機会であるため、できるだけ活発な議論をお願いしたい。</p> <p>事務局</p> <p style="padding-left: 2em;">では、会長から議事の進行をお願いしたい。</p> <p>(会長)</p> <p style="padding-left: 2em;">(以降は、子ども子育て会議条例により会長が議長となり進行)</p> <p>議長</p> <p style="padding-left: 2em;">それでは、次第に沿って進めさせていただく。 はじめに、(1)子ども・子育て支援事業計画の評価、検証について、事務局から説明願う。</p>					

事務局	<p>【資料1 魚沼市子ども・子育て支援事業計画平成28年度事業評価シート】に沿って説明。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の評価については、年度が全て終わっていない中での評価であり、中間評価という位置付け ・概要についてポイントを絞って説明
議長	<p>今ほどの説明について質問があればお受けしたい。</p>
委員	<p>保育園、こども園について、第1希望に入れなかった児童の数ほどの程度になるか。地区として、かなり動かなければならなかったか。</p>
事務局	<p>人数は現在、把握した資料を持ち合わせていない。10人はいなかったと記憶している。主に堀之内地区、湯之谷地区と認識している。</p> <p>私立の小出保育園が受け皿になっていただいた。そちらだと通いづらいという方はしばらくお待ちいただいた。</p>
委員	<p>年代別ではどうか。小さい子が多かったか。0歳児？</p>
事務局	<p>0から1才児が多かったように思う。</p>
委員	<p>公立保育園において延長保育料の発生する時間帯を見直したとあるが、どのように見直したのか。</p>
事務局	<p>保育時間が8時30分から16時30分までとなっているが、その前後1時間、7時30分から8時30分まで、16時30分から17時30分までが延長保育料がかからない時間帯となっている。それ以前それ以降が有料となっている。</p>
事務局	<p>補足になるが、保育をご利用いただく場合、保護者様の認定の事由によって標準時間認定と短時間認定がある。標準時間認定の場合は、公立保育園の場合、7時から19時まで延長保育料をいただくことなくご利用いただいている。短時間認定の場合、先ほど森山が説明したとおり、7時30分から17時30分までは延長保育料がかからず、朝7時から7時30分、夕方17時30分から19時までにご利用いただいた場合延長保育料として100円の負担をお願いしているところである。</p>
委員	<p>公立で有料時間に預けるお子さんが多いかどうか聞きたい。</p>
事務局	<p>57ページの実績値は、延べ人数となっている。各園ごとのその日その日の人数となるとそれほど多くはない。</p>

議長	標準時間認定のお子さんと、短時間認定のお子さんの割合はどうか。
事務局	確認するので、しばらくお待ちいただきたい。
議長	確認のための時間の間、標準時間認定と短時間認定の違いを説明いただきたい。
事務局	短時間認定は制度改正前と同様に、朝 9 時前から夕方 16 時にご利用いただくものであり、標準時間認定は、朝 7 時から夜 19 時まで、保護者の仕事の都合にあわせてお預かりするものである。
議長	保護者さんが働いていれば、朝 7 時からお預かりしているということか。
事務局	はい。
事務局	お待たせした。標準時間認定と短時間認定の割合だが、2 月 1 日の状況で、保育認定を受けているお子さんが全体で 1,029 人おられ、標準時間認定が 685 人(66.5%)、短時間認定が 344 人(33.5%)となっている。
委員	公立保育園の延長保育を利用する保護者の身としてはありがたい。私立保育園の場合は、その部分の経費の負担はどのようになっているか。
事務局	運営費は市から委託料として支払っており、その金額の基礎は国の基準額に基づいたものになっているので、ご安心いただきたい。
委員	幼保小連携の取組について、今年の会議において、小学校と幼稚園で交流会を開催させてほしいという要望をさせていただいた。小出小学校とは交流会があり、度々年長児を連れて、小学校に遊びに行っている。幼稚園は、他の地区から通ってきている子もいるため、その子たちも自分が入る小学校に見学に行きたいということで度々お願いをしている。今年度は直接小学校に連絡して、忙しいのであれば授業参観だけでもさせてもらえないとお願いした。ところが、1 年生が落ち着かなくなるということや担任が困ると言っているということで断られてしまった。それであれば先生から見に来てほしいとお願いして、それは実現した。昨年よりは一歩進んだ。小学校によって対応が異なるようだ子ども達にとっては良くない。出来ればそういった機会を確保していただいて、幼保小の連携が図られるようお願いしたい。来年度の教育要領が改正になり、幼保小の連携強化が打ち出されるようなので、余計に必要なのではないかと思う。
事務局	個々の園、学校同士での交渉も必要かとは思いますが、全体としては教育委員会で統一した対応が必要であると思うので、学校教育課とも相談して、対応を検討していきたい。

委員	親支援と子育て支援はどのように違うのか。具体的には、親支援ということで孤立感がないようにと実施している親子広場やペアレントプログラム、孫育て講座などは、親支援なのか、子育て支援なのか。
事務局	子育て支援センターでは、遊びの広場の開放などを通して、親が孤立感を感じないようにとの事業を実施している。事業の一つとしてペアレントプログラムということで子育て講座を実施しているし、先日は孫育て講座ということで祖父母対象の講座も開催したところである。大変好評であった。広くは、子育て支援の一環として実施しているものになる。
事務局	各保育園でも随時、子育て相談に応じているところである。
委員	子ども電話相談に関して、子どもからの電話の件数を把握しているか。
事務局	子どもからの電話相談は0件。主には関係機関、学校などからかかっている。
委員	子ども対象なら、周知をしたとしてもある程度大きくなないと電話はしてこないのでは。高校生くらいになれば電話してくるかもしれない。
事務局	対象は18歳までとなっている。高校生から電話してもらっても対応する。
委員	高校に周知しているか。
事務局	高校には周知していない。今後検討したい。
委員	保育料は、母子、ひとり親について軽減するということだが、2人親で病弱で働かないなどの場合に軽減措置はないか。
事務局	保育料は、所得により計算しており、所得の低い方は負担を抑えた額としている。
事務局	児童扶養手当は対象外となるが、障害者手帳などをお持ちの場合は対象になる場合もある。
委員	2人揃っているがために、困窮していて支援を設けられないようなケースがあれば救わなければならない。もっとひどい場合はどのように対応しているか。
事務局	生活に困窮したような場合は、市民相談センターで相談いただければ、必要な手続きをしていただけるように振り分けることができる。生活困窮などであれば生活保護など

	により生活を支援することになる。
委員	漏れはないか。
事務局	相談いただいている案件は、必要に応じ対応しているものと理解している。こうしたことは、申請主義によるところもあるので、申し出がないと気づくことが出来ないケースも想定されるが、学校、保健師、民生委員などが日頃接する中で対応できる部分もあると思う。
委員	<p>支援ファイルの活用が 16 冊で、昨年より増えたようだが、つくしプレイ教室などでまだ知らない方もいるようだ。幼稚園でも障害をお持ちの方がいて、定期的に話し合いを設けているが、つくしプレイの卒業生で支援ファイルのことを聞いたら、「そらまめクラブ」で聞いた、ということだった。そらまめクラブは、かけはしさんのところ保護者のサークル。まだまだ周知が足りないのではないか。本当に支援ファイルが必要なかどうか、行政としてどのように感じているのか。保護者はこれを書くのも大変だ。何年前かに増刷したとも聞いている。在庫としてはいっぱいあるんだと思う。また、支援ファイルが使いづらいという声もある。</p> <p>支援ファイルの活用もよいが、そらまめクラブのように、先輩の声を聞けるような場があると良いと思う。</p>
事務局	支援ファイルについては、今年度の第 1 回会議の際にもお話をいただいて周知をしていこうということで 1 年間取り組んできた。市役所内の関係部署は、福祉課、健康課、教育委員会などになるが、保健、福祉、就労、子育てなど、それぞれ目的意識が異なっていることも否めない。支援ファイルを仲立ちにして、関係課で支援策を検討するなどの利用方法もあるのではないかと聞いて聞かせていただいた。参考にさせていただく。
議長	<p>他にいかがか。</p> <p>ないようなら、次の議題に進みたい。</p> <p>(2) 子ども・子育て支援事業計画の中間年計画見直しについて、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>資料 2 により説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国からの指示に基づき、中間年である平成 29 年度に見直し、計画変更を予定。 ・計画変更は、「第 2 章 幼児期の教育・保育の量の見込みと提供体制」に限るものとする。 ・変更内容は、実際の児童数の推移に合わせた量の見込みの調整と、保育園等の閉園等による利用定員の見直し
議長	<p>この件に関して、ご意見、ご質問等あればお受けしたい。</p> <p>ないようなら、次の議題に進みたい。</p>

事務局	(3)平成 29 年度魚沼市事業(予定)について、事務局から説明願う。
議長	資料 3 により説明 ・子ども・子育て関連分野について説明
事務局	この件に関して、ご意見、ご質問等あればお受けしたい。 ないようなら、次の議題に進みたい。 (4)今後の公立保育園等の民営化に係る検討の進め方について、事務局から説明願う。
議長	口頭にて説明 ・平成 27 年度に基本的な考え方について、この会議でご検討いただいたところ。 ・平成 29 年度には実施計画の検討を行いたい。 ・検討は、子ども・子育て会議とは別に会を立ち上げ、そちらで検討を行いたい。 ・子ども・子育て会議には、進捗状況を随時報告したい。
委員	ありがとうございました。 少し時間があるので、全体を通して、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思う。 木田委員から時計回りで順にご発言いただきたい。
委員	今年度は、2 回だけの開催であったが、6 月の会議に参加できなかったため、1 回だけの参加になってしまった。今お聞きしていても 6 月に話し合われた内容がよく分からなかったもので、申し訳ない気持ちで話を聞いていた。何もせずに終わってしまった感じである。
委員	2 年間参加させていただいた。子どもが 3 人おり、2 人がステップアップ教室でお世話になった。羽鳥委員からも話があったが、私から支援ファイルに関係機関にもっていくこともなく、学校から見せてほしいという話もなく、支援ファイルは持ったままになっている。そこが気になっていた。自立支援協議会の活動によるものということで福祉課で担当されていると思うが、健診をとおして気づくようなところもあるので、健康課が担当しても良いのではないかとも思う。親も地域や学校とつながっていきたいと考えている。 他の委員さんの意見を聞かせていただき、私自身参考になった。ありがとうございました。
委員	会議に参加させていただくたびに、子育て支援の事業がたくさんあることを再認識した。保育園では年度途中で未満児の入園が増える傾向にあり、平成 29 年度からの第 2 子以降無料化でどんどん増えるのではないかと思っている。受け皿を考えていかなければならない。

委員	<p>都会では、保育園に空きがなく待機となる期間も長いと聞く。本市では子どもが減っており、統合も進んでいる。人数が少なくなった子どもを取り合い、ギズギスするようなことはしたくないと思う。魚沼市が一緒になって、共生の考え方で進んでいくような方向を望む。保育施設では質の高い保育を提供し、子育てしやすい地域でありたい。子育ては、当事者でないと分からないことも多いので、今後は、たくさんの若い人から意見を聞くことも大切だと思う。</p>
副会長	<p>主任児童委員を務めている。この会議では一体何を話し合うのだろうと思ったのが一番の印象だった。意見が出るのはとても大切だが、意見が出っぱなし、出っぱなしではいけないと感じている。民生児童委員を活用してもらいたいと訴えているが、自分からどんどん入っていくのは難しく、また、家の中に入ってもらいたくないというような方もあるので、情報をもらいながら進めていきたい。</p> <p>保育園では保育士が不足している。保育の質を高めるためにもやっぱり人が必要。人が足りなければ受け入れられない。市長が替わったので2人目が無料になるということだが、無料になったら入れなきゃ、という声も聞く。それがなかったらもう1年自宅で子育てしていたはずの人もいだろう。そうするとやっぱり人が足りなくなる。</p> <p>民営化も昨年さんざん盛り上がったが、平成28年度はストーンと落ちた。平成29年度は検討委員会をたてて、民営化の議論、保育園の統合などもあるので、しっかり検討してもらいたい。</p>
委員	<p>子育てしやすい魚沼市を目指していただきたい。</p> <p>P T Aの役員をしているが、なり手がいない。勤め先における子育ての意識が低いように思う。子どもの学校のことで休みにくい風潮がある。子どものためなら胸を張って休めるようにしていくことが出来ればよい。バランスを大切に進めてもらいたい。</p> <p>かたっくりが子育ての駅になるという話を聞いた。話を聞かせてほしい。</p>
委員	<p>6月の会議は欠席させていただき、今回が初めての出席となる。ステップアップ教室は、平日昼間の開催で、行きたくても行けなかったという声も聞こえてきた。夜に開催してもらえれば出席しやすかった。</p> <p>仕事は、小出中で介助員をしている。放課後児童クラブの職員では発達障害に関する研修があるそうだが、介助員は年に1回研修があるが、研修や資格取得に関する情報を紹介してもらえるとありがたい。</p>
委員	<p>学童の連絡協議会の集まりで、色んな子どもが増えている中で、先生や保護者から支援員が足りないという声を良く聞く。子どもが少なくなっている中でこれだけの事業を進めていくことは大変だと思うが、いま説明のあった事業をどれ一つ欠かすことなくより充実した制度にしてほしい。</p> <p>3年生の長男がステップアップ教室に通っていた。今は非常に落ち着いている。親の理解がないと、子どもが切ない思いをすることがある。説明を受けても参加しない方も</p>

	<p>いるということだが、子ども達への支援が不足してつらい思いをするようなことがないよう、保護者への説明のしかたを工夫してもらいたい。</p>
事務局	<p>まず、かたくりについて。お分かりの方もおられるかと思うが、今のところ空き施設になっているが、これを活用しようということになっていて、子どもが自由に使える子育ての駅(仮称)として活用することとしている。子どもを取り巻く地域や人材を育てていこうというプランになっている。企画政策課が所管している。事業実施になったら子ども課が所管することになりそうなので、企画段階から関わっていきたい。</p> <p>ステップアップ教室については、センター長から説明願う。</p>
事務局	<p>ステップアップ教室について、お母さん方は働いている方も多く、平日の昼間はなかなか参加しにくい、夜の開催をというご意見だが、子どもさんからも参加いただいているので、夜がいいのかということもあるし、原則は親子で参加いただきたいと思うが、祖父母の方から連れてきていただくということなどを今後の課題とさせていただきたい。</p> <p>年中児発達相談からステップアップ教室のつながりは、非常に大切だと思っている。新年度、各保育園に発達支援コーディネーターを置くこととして構想しているので、現場のほうに発達支援のリーダーを養成することでスキルアップを図っていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>介助員の研修については、今の話を持ち帰らせていただいて、直接的には学校教育課が対応することになるので、検討させていただきたい。</p>
議長	<p>多くの事業が子ども達のために、子育てのために実施されている。たくさんの方の予算や人が関わっている。保育園から学齢期まで子育てはずっと続いている。小さい子ども達が親と一緒に過ごしながら成長し、小学校に上がってくる。親御さんは、子育てを他人に任せるのではなく、親が自分で子育てをしていく覚悟を持つことが大切だ。そうすると親支援というのは何なのか。子どもが親からはなれる時間が長くなれば子ども達は寂しいし、親御さんも親になっていけないところもある。</p> <p>現代は激動の時代で、生活も所得も違う中で親も苦勞しておられる。何かあればサポートしてもらえる、相談に乗ってくれるということがこの会議が取り組んでいるところ。継続的に発展していき、少子化の中にあって魚沼市に子ども達が増えていくようにするためには、私たちにできることは何かともに考えていかなければならない。</p>
事務局	<p>最後になるが、子ども課長よりご挨拶申し上げます。</p>
課長	<p>本日は、年度末のお忙しいところ、皆さんから慎重審議いただき感謝申し上げます。</p> <p>今回が、皆様の任期としては最後の会議となる。4月からは新しい委員により子ども子育て会議が組織される。中には引き続きお願いする方もいらっしゃるかと思う。その</p>

際はよろしくお願ひしたい。

この会議、今年度は2回のみ開催となったわけだが、具体的な計画策定をしなかった年ということで会議の回数が少なくなったわけだが、会議の度に貴重なご意見をお聞かせいただいた。特に保育に係るマンパワーの問題とか、福祉、健康、教育などの庁内の連携とか、事業所の取組や地域との連携の話もお出しいただいたので、われわれ子ども課だけで子育て支援に関する取組を全てできるわけではないので、そのあたりを含め、まさに全庁を挙げて取り組んでまいりたい。市長からも子育て支援に重点的に取り組んでいくよう指示があるので、取り組んでいきたいと思っている。今後も何かの機会でご子育て支援のご意見をいただければありがたい。

本日はありがとうございました。

以 上